

磐城時報

福島縣石城郡平野町屋敷十四
印刷 磐城時報社
電話 二二八〇
郵政 郵便局特准掛號認爲新聞紙類
第一號 郵政省特准掛號認爲新聞紙類
廣告料 一行一円（四角）以上一円五角以下
△日刊（日曜、祭日）休刊

休銀の蓋あけを ひた待に待つ平地方 菊多各部の金融界は 全く平穩に歸す

平野町を中心とした最近の金融界も平銀の休業直後一兩日間
は休業銀行の蘇生が漸次好轉のに亘り多少の引出しを見たが
曙光を認めながらも目前に節季右は預金者の不安に原因するも
師走の受難季を控へておるだけのと観るよりは寧ろ平方面の金
に休銀に伴ふ必然の結果として融梗塞に基く當然の結果と見る
無理算段の現金取り引きその他へかりし節あり殊に同行におい
の方面の空気が頗る慌しいものあては荷も取引先に何等かの不
るが、この傾向はひとし休業或安ありとすればこの際これを一
は支拂制限銀行の所在地たる平掃する義務ありとし當座の預金
四倉方面のみに止まらず過般平は勿論稀には定期の引出しに對
銀の休業直後にあつては取引關してさへ快くその希望を容れた
係その他これの内容を異に程で彼此一般人心の平調に歸す
してゐる郡南菊田方面にも若干の事も早く最近の菊田方面金融
の運動を生じ植田町所在の警東は殆ど平常と異なる處なく今や
銀行の如きたと未だ以て数字米、菊田等の出廻り期に直面し
的に示す底のものに非ざりしと順調なる放資が行はれつゝある

平銀行の内容調査 二十八日で終了

明一日平銀重役會に報告

休業中の平銀行合併を前提とし調査内容を諮り合併に關する協議
て去る十一月二十一日以來平銀を行ふ事になつたが、三宅支配
行樓上に来り内容を調査中であらう等の調査は絶對秘密に附され
つた水戸市常盤銀行三宅支配人である。
等の調査は二十八日を以て全
終了したので明二十一日平銀
行重役に對し調査の経過を報告
し直ちに本店に歸り重役會に調
査通りの二大銀行である磐城銀

激増する 郵便貯金

調査の結果炭礦側の目論み通りに事
死にました。

好間、赤井、内郷の炭田を 六ヶ月掛りで調査

古河炭礦駐生策

石城郡好間村古河炭礦が工費七
百餘萬圓を投じて堅坑を開鑿し
その規模の擴大なるは東洋一を
ほこつてゐたのであるが、過般
坑内に出水した爲め五ヶ年の歳
月と七百餘萬圓の工費を水泡に
歸してしまつたのであるが、堅
坑の復興策として大館の斜坑を
改革し再び常盤炭礦界に雄飛せ
んとする計をもつて各所の事
業設計中である。即ち赤井地内
好間村地内、内郷村地内の三ヶ
所に計を立てるが、この事業
調査は約六ヶ月を要するのでそ
の結果炭礦側の目論み通りに事

築港運動

石城郡江名濱町永年の懸案であ
る江名濱港築港問題に就き地
元江名濱町では縣會開會に際し
躍起となつて促進運動を行つて
ゐるが二十八日野河町長外町議
一同植田町に驚、古川兩縣議を
歴訪陳情に努めた。

汽車と誤り 電車に轢かる

内郷村大字宮城炭礦職工信夫
郎（三三）は二十九日午後四時半
頃磐城炭礦高城坑坑下下の鐵
道線路を進行中電車が来たのを
汽車と誤認し進行中の電車の前
に避けられ、車体に觸れ六間程
引摺られて全身に負傷し内郷病
院で手當を施したが午後七時半
死亡した。

結局水泡に歸すらしい 官行製炭中止運動

平營林署長上京

石城郡南貝泊村方面の製炭事業方の製炭事業状況を詳細に調査の
は各方面關係者の反對から事業上報告するやうにと諮問があつ
中止を傳へられてゐたが、主務たので、同組合では關係者の協
省では依然方針を變更せず明年議の上目下是が事項に付いて調
度から製炭事業を遂行し、是を進行してゐるが、官行製炭中
が打合せのため平營林署長は二
十八日上京したので其結果は今
明日中に判明するものと見られ
てゐるが濱三郡製炭業同盟會で
は先に濱三郡選出代表士、各縣
議を動かして事業中止の陳情を
なしたが奏効せず、いよいよ、明
年度から事業を開始することに
なつたので非常に狼狽をなし縣
伴ひ福島署人事相談所を訪れ救
當局に事業中止の陳情を提出し
たが二十八日縣當局から濱三郡
市生れ石城郡湯本町炭礦後山歌
の木炭業組合に對し單に陳情書
のみにては主務省に對して十分
傳達する事が出来ないから同地
んたが炭は大の放蕩もので妻
子會を開き善後策の協議をした。

放蕩夫に捨られ 救ひを求め

五人の子の母

二十八日午後九時頃の霜凍る寒
夜に頭へながら三十歳前後の女
が才の子を頭へ五人の子女を
を預金し半歳の永きにわたる拂
戻しに困り切つてゐる石城
郡内十九ヶ村では銀行重役が敷
年内單獨開業も疑は
たが二十八日縣當局から濱三郡
市生れ石城郡湯本町炭礦後山歌
の木炭業組合に對し單に陳情書
のみにては主務省に對して十分
傳達する事が出来ないから同地
んたが炭は大の放蕩もので妻
子會を開き善後策の協議をした。

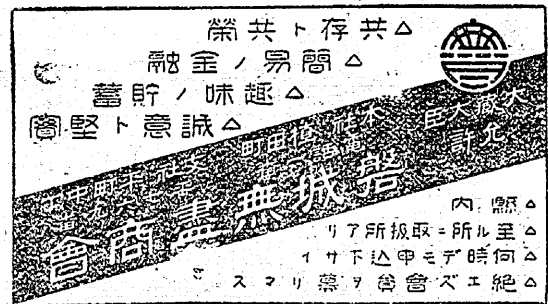
平銀・常盤合併問題と 單獨開業について

縣會議員 山崎吉平氏談

之れより幾に磐城銀行閉店當
時常盤銀行と合併し難局の打
開を計したが、はかばかしく
行かず、二三ヶ月延引した處
今回の緩慢なる取付けにあつ
た爲め急遽合併問題が再燃し
現在に至つたものである。合
併の成否如何は未知數のもの
であるが、萬一合併不成立の場
合には單獨開業の實現に一路
邁進する云ふのが我輩の持
論である、其れには矢張り重
役が私財を提供して營業資金
の調達を圖り、一般預金者に
對しては誠意を披瀝し相當の
約束利子を附して五ヶ年開業
賦拂ひに諒解を得る様重役自
らその衝に當り、過日も本紙
上に於いて述べた如く支店、
出張所を撤廢し元員の淘汰を
行ひ、當分無配を漸行し重役
は無報酬で献身的に努むる事
場合に依つては株主の拂込み
も已むを得ない事であらう、
斯様な整理案を基標として所
期の目的に向つて邁進したな
らば、預金者には絶對迷惑は
掛らぬものと思ふ、假りに之
れを数字的に述べると貸付金
に於て四百萬圓以上、未拂込
を顧みずにも無斷家出し東京
に行つたのでキヨは家財道具を
賣拂ひ夫を尋ねて同棲したが僅
八日間で又々行衛をくらました
ため炭の質が福島にあるのを
頼り同夜福島に來たもので同女
は臨月の上に五人の子供もあり
如何ともなし難く人事相談所
泣き込んだもので炭の質とい
ふのは市内大町玉萬事佐藤清吉
といひ同地方では大きな蒲鉾店
なので快く六名を養育する事と
なり同夜から温かい床に寝おき
する事となつた。

石城町村長會 預金問題で

が七十五萬圓、合計五百萬圓
に近い財産を有し、之れに對
し預金は三百二十萬圓内外で
あるから多少回収不能の貸金
があつたとしても今後五ヶ年
を経過する間には預金者に迷
惑は掛けないものと思つてゐ
る。加ふるに貸付金中重役及
相談役に於いて運用してゐる
ものは全然無くそれに反し、
預金は少くとも十四五萬圓は
あるだらう。斯様な内容をも
つてゐる平銀行の事であるが
一般預金者は勿論の事平野町
民の熱誠な同情と後援を得ば
單獨開業は決して至難な問題
では無いと固く信するもので
あるし、地方世界の安定及産
業開發の趣旨から云つても是
非地元銀行の存立が刻下の急
務であらうと思ふのである。



共済の精神 誠意 共済の精神 誠意

預金の賣買を致します
賣買の手續は無料で致します
平町 仲田町
電話 四六五番

靴とカバンは
福山に限る
平町役場前 福山支店

内臓外科 骨關節外科 整形外科 産婦人科
藤本 順
木村寅次郎
木村醫院
平町新川町(電話一六四)

寒サ愈々迫ル
ツルヤ商店
平町 電話 四十四番

警城共済病院組織
院長 小兒科 (院長毎日診療)
副院長 醫學博士 難波
内科部長 醫學士 五十嵐 雄二
外科部長 醫學士 伊吹 彪二
産婦人科部長 醫學士 鈴木 憲
X光線科 醫學博士 難波
本院醫事法制囑託 法學士 岡 波
本院主事 賀 澤 忠 治 蕃 睦
御大典記念事業トシテ
一衛生試驗所 (共済病院内) 十二月一日ヨリ開始
一病氣相談所 (共済病院内) 十二月一日ヨリ開始
一救 療 所 (共済病院内) 十二月一日ヨリ開始
電話 六四一 警 城 共 済 病 院
本院自炊ノ便アリ 看護婦見習募集
淋病、消渴に奇妙に良き
淋 特 價 八日分一、五〇
十六日分二、八〇
効力偉大なる、胃腸を害することなきは既に試用者各位の定評なり。病める方よ、一時も早く試用され病苦を去られよ。
平町研町(公園下)
製藥發賣元 水野藥局

市原病院
平町田町(電話二四番)
内科、小兒科 市原 卯太郎
外科一般、婦人科 市原 陸郎
花柳病科 市原 三三男
肺病助膜 専門藥
不_レ_レ_レ錠 藥價 十一日分 七〇〇
卅三日分 二〇〇〇
▲試用者の感謝と、好評なる賣行きとは其優秀なる効果を立證せり。
▲故に輕症期に於ける人々よ、直ち服用し以て一刻も早く健康体に復せよ。
▲則ち本品の現出は、病者を救ふに偉大なる福音なり。
▲説明書密送す、御申込あれ。
代理店 平町 山野邊藥局
五丁目角
古流 生花 折入 盛花 教授 松原 吉田 理秀
平町大町若松病院向いづみや方
(毎週日曜)

警城セメント株式會社
壁用材料
コールタール
ペンキ塗料
板カラ
代理店 西村屋藥舖
平町二丁目
電話 三番
警城病院改稱
市原病院
平町南町
X光線科
上田外科醫院
電話 一二九番